

地域社会を核とした教育と研究のつながり： 体育指導観察実習の授業を通して

保健体育講座・糸岡 夕里

1. 「体育指導観察実習」の概要

「体育指導観察実習」の授業は、中等教育コース保健体育専攻 1 回生（4 名）を対象として開講している授業科目である。

この授業では、現場の保育（運動遊び）、体育授業を参観することにより、保育士、教師の働きを客観的に観ることや、幼児から中学生までの子どものリアルな動きから運動技能の発達段階を系統的に理解することをねらいとしている。

【授業の目的】

本授業の目的は、保健体育教員に求められる資質や能力、教科指導に求められる今日的課題について理解を深めることである。

【授業の到達目標】

- (1) 授業観察の基本的視点について説明できる。
- (2) 教員に求められる資質能力について説明できる。
- (3) 教科指導に求められる知識、技能および態度について説明できる。

2. 「体育指導観察実習」の授業内容

今年度の実施内容については、表 1 に示した通りであった。幼稚園 1 園、小学校 2 校、中学校 1 校の授業参観および省察を行った。

表 1 「体育指導観察実習」の実施内容

日付	【授業】 内容
12/6	公立 A 小学校 体育授業（2 年生，4 年生，6 年生）参観，体育専科教員との授業協議
12/14	学校法人 A 幼稚園 保育（3・4・5 歳児，運動遊び）参観，省察

2/3	愛媛大学教育学部附属小学校（研究大会） 体育授業（5 年生）参観，研究協議参観
2/16	愛媛大学教育学部附属中学校（研究大会） 体育授業参観（2 年生），研究協議参観

3. 授業評価

本授業の授業評価として、学生の省察の一部を以下に抜粋した。

実際の子どもの動きを観るからこそ感じる学びがあり、学内の授業で伝えることが難しいことが、保育（運動遊び）参観や体育授業の参観から理解を深めることができていることがうかがえた。理論と実践の往還の基礎となる授業として、今後、より充実した授業となるように努めたい。

- ・一番強く感じたことは自分が今までに経験したことのない、体育や大学の授業で行ったことのない種目も自分で勉強して練習法などを考え、技術面での指導も行う必要があるということだ。
- ・思っているほど中学生の運動の能力が低かったことである。難度の調節や基礎をしっかりと身につけさせてから実践的な練習に移る必要があると思う。そのためにも、基礎をしっかりと教え、実演できるように、教科書にあるスポーツをできるだけ経験し、基礎的なことはできるように努力が必要だと思う